

行っています。その年の10月には、若い天文学者たちは、オリオン星雲のあたりを25枚の乾板にうつし、116個の変光星の写真等級と、輝線をもつ28個の星の光度を測定することに成功しました。1958年以来、恒星のスペクトルや光電測光に関するデータが集積しています。一連の理論的研究は、過去2~3年の間に出版されるようになりました。

1964年以後、天文台は15cm屈折鏡で小惑星の写真をとって来ました。しかし1954年以後は、修理が成った60cm反射鏡で同様な観測が続けられています。台長張鈺哲の指導の下に、天文台員はまだ天体暦の中に記載されていない70以上の小惑星を、過去数年間に発見しました。

新中国の誕生以前には、すべての現代的な天文機械は輸入するより他はありませんでした。中国はそれを修理する手段すらもなかったのです。しかし60cm反射鏡の修理の準備は、1949年に南京が解放されてから、直ちにはじめられました。1954年には、17年間も使用されずにいたこの望遠鏡が、ふたたび活動を開始しました。20cmの屈折鏡も修理されました。天文台が得た新しい装置の中には、太陽観測研究のためのリョー彩層望遠鏡、6波長領域の太陽分光器、恒星位置と光度を測定するための40cmの二連屈折鏡、恒星測光のためのアイ

リス・フォトメーター、星位置及び時刻観測のための二台の子午儀、写真から小惑星の位置を決定するための座標測定機などがあります。地下15mには恒温の時計庫が作られ、5台のショルト天文時計と1台の水晶時計がおかれています。

1958年以後、天文台に附属した天文装置工場が高精度の天文機械を多く製造するようになり、その中にはシュミット望遠鏡、マクスートフ望遠鏡、その他いろいろな口径の反射望遠鏡が製作されています。1955年に上海の復旦大学を卒業した楊世傑は、現在天文装置部の副部長として、また天文装置工場の技師として、高い水準の複雑な光学系や機械を設計し、製作しています。

中国における天文学は、古代にまでその歴史をさかのぼることができます。その古代の天文学者たちは、この科学に対し、すぐれた寄与をなしとげました。彗星、新星、日食や月食、太陽黒点、その他の天文現象について、彼等が後世にのこした知識の豊富な遺産は、現代の天文学の要素の一部をなしています。彼等が発明した天文機械は今日でも称賛されています。しかし、中国は長い反動支配の時代に、この科学ですっかりおくれを取ってしまいました。今や新中国の建設によって、この分野での寄与を再びはじめようとしています。

(原文英文一編集部訳)

雑報 札幌天文台報 VEGA と仙台天文台同好会年報 VEGA というタイトルをもつ札幌天文台報は年刊で、アート紙に印刷された表紙とも30頁前後の美しい印刷物である。昨年発行された第6号のあとがきによると、この台報と別に毎月出されている天文ニュースで天文台予算の4分の1を支出しているそうで、この市民天文台の重要な目標として

いることがうかがわれる。

「全号を通じ天文台の行事報告並びに天文台を利用する市民の観測報告が中心で、たとえ幼稚なものであっても、記事はすべてオリジナルですし、写真等もすべて複製ではありません。これは当天文台が現に存在し、そして有効に活動を続けているという、何物にも優る証拠を示すものではないかと考えます。」と編集者が述べているのは、この報告の性格と編集態度を示すものと思う。

第6号の内容は木星の観測報告(大場与志男、佐々木貢)、流星塵の研究(札幌北校地学部)、流星観測記(石塚良一)、星雲星団の観測(高橋実)などで、木星観測はたんねんなスケッチと変化の記録が記されているが、私は高橋氏の星雲、星団の見えかたの記録が面白かった。これは誰でもできることだがあまり報告がない。

仙台天文同好会のは観測研究部の年報として、1963年

Vol. 1 が約100頁の謄写判印刷。1966年1月1日附で発行された。

内容は仙台天文同好会長吉田正太郎氏の「研究する、まとめる、発表する」というフェラデーの言葉を引用した発刊の辞のほか、1963年の北海道日食の報告、変光星、月面、火星、木星などの観測報告がかなりくわしくのせてある。

日食は写真撮影、接触時刻、光度変化などの記録があり、変光星は5名の観測者が1961~63年の間に各型の変光星4088個の観測をした。それらの観測光度、光度曲線、極大、極小の日時等が記載されている。また、火星、木星の観測は、火星極冠や表面模様スケッチや変化のくわしい記録がのせられている。変光星の観測記録は私にとってはなかなか興味あるものであったが、わく星面の記録も、これだけまとめてあると門外漢の私にも何か興味をもって考えさせるものがふくまれているようにおもう。なお筆者はこの変光星の報告者の中に阿部健望氏の名を見出し、胸つまる想いであった。氏はその後五藤光学を経て39年6月東京天文台太陽物理部に入られたが、本年2月下旬の火災で前途有為の生命を閉ぢられた。御冥福をいのる。(K h)

月の裏側の地形の命名 ソ連のミハイロフより IAU の月の委員会を通じて、月の裏側の地形の命名について委員の意見を求めてきた。それは月の地球の方に向いた地形は、科学者の名が多くつけられているが、裏側はこれと区別するために、科学者でなく、詩人、画家、作曲家などの名をつけようというものである。1959年のルナ3号撮影の裏側地形の命名のときは、このことに気がつかず、マクスウェル、メンデレーフ、キュリーなど科学者の名を多くつけたが、これを改めるのは混乱するので、そのまま残したいということである。この命名について会員諸君の中で御意見のある方は東京天文台、広瀬秀雄氏まで申出られたい。

電子計算機プログラム登録制度 最近日本電子工業振興会より日本天文学会会長あてで下記のようなプログラム登録制度につき周知方の依頼がありました。そのため本欄をかりてその制度を紹介いたしますので、電子計算機利用者の相互の便宜のため、会員各位の御協力がいただければ幸いです。

プログラム登録について

目的 電子計算機プログラムの有効な相互利用のため、一般性のあるプログラムの登録を受ける。

登録の条件. 1. 公表しても良いプログラム。2. プログラム内容を提供できるプログラム。3. プログラム述言記語が、原則として ALGOL, FORTRAN, COBOL または同レベルのもので書かれたプログラム。4. 他の機関に発表されたプログラムでも良い。

登録費用 登録のための費用は、当分の間無料。

登録プログラムの公表 登録プログラムがある程度まとまったら「登録プログラム集」を発行する。(価格未定)

登録方法 所定用紙の諸事項を記入のうえ、登録事務

局あて郵送により登録する。

登録プログラムの審査 登録プログラム内容の審査は行なわない。しかし場合によっては登録を拒否することがある。また、プログラム内容の責任はもたない。

登録プログラムの管理および複写 登録プログラム内容のリスト・カード・テープなどの管理および複写は行なわない。

登録プログラム内容の問い合わせ 登録プログラムの内容に関する問い合わせは受けつけない。したがって直接連絡者に問い合わせること。

登録事務局 東京都港区芝罘平町 35 番地 (船舶振興ビル 4 階)

社団法人 日本電子工業振興会 電子計算機部
「プログラム登録事務局」電話 502-2371 内線 350

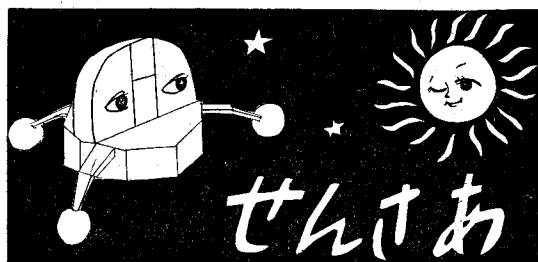
学会だより

◇昭和 40 年 11 月 24 日、清水 壘、広瀬秀雄の両氏を文部省科学研究費等分科審議会委員候補者として評議員会より推薦した。

◇昭和 41 年 2 月 11 日 青木信仰、山下泰正の両氏を日本学術会議選挙管理委員候補者として理事会より推薦した。

◇さきに 3 月号で発表しました通り、本年の日本天文学会春季年会は、期日は 5 月 12 日 (木) 13 日 (金) 14 日 (土) であり、会場は東京大学理学部 2 号館です。

また講演希望者の中で、出張旅費支出の困難な方は、本会より数名に **旅費補助**が可能です。申込用紙は、須川、高窪、赤羽、川口、三沢の各支部理事の手許にありますから、希望者は最寄の支部理事に御相談下さい。



☆京都大学の川口市郎氏は、フランスのピク・デュ・ミディで研究するため、二月十五日に離日した。

☆アメリカのエール大学天文台長のブラウアー教授は、さる 1 月 31 日死去された。ブラウアー教授はオランダ生れの著名な天体力学者で、ライデン大学で学位をとられた後、エール大学に移り、長い間その天文台長と、アストロノミカル・ジャーナルの編集責任者をつとめられた。

☆本年度の Astronomical Society のゴールド・メダルは、I. S. ボウエン博士と、H. C. ユーレー教授に対し授与が決定した。ボウエン氏は分光学及び光学天文学に対する功績、特にパロマーの 200 インチ望遠鏡の建設に関する功績に対して、ユーレー氏は宇宙化学、ことにその太陽系起源の問題に応用における功績に対して与えられたもの。なお、エディントン・メダルは、R. ウィルト教授に決定した。これは晩期星の吸収能の主な源として負水素イオンが相当することを述べたことに対して行われたものである。

☆ミシガン大学天文台のマクローリン (D. B. McLaughlin) は昨年 12 月 8 日 64 才で世を去った。氏はミシガンの 37.5 インチの反射鏡を使って、新星、変光星、特異星のスペクトルの研究をつづけ、個々の新星および輝線をもつ B 型星のスペクトルについてはならぶものがないエキスパートであった。